

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	中学生	カヴァー	中学生
	ウロボロス			年齢		15
オプション	覚醒	憤怒	衝動	憎悪	初期侵食率	38%
出自	安定した家庭		経験	平凡	邂逅	遭遇

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2	0	0			2	行動値	10
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	10
精神	4	0	0			4	戦闘移動	15
社会	0	0	0	1		1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	12r	1	24		
	白兵	14r	1	28		
	白兵	14r	1	58		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: 噂好きの友人					

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
"輪廻の獣"(アルマ・リナム)P		N		
春風花怜	P 大好き	N 不安		
天城星羅	P 誓い	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
螺旋の悪魔	7	3	セットアップ					
効果:	即座に暴走を受け、ラウンド間攻撃力を[Lv*3]する							
崩壊のヘリックス	5	3	メジャー				リミット	
効果:	《螺旋の悪魔》攻撃力+[Lv*5]シナリオ1回							
無形の爪牙	1	3	マイナ					
効果:	素手変更[Lv+2]、G値1							
コンセントレイト	2	2	メジャー					
効果:	c値-Lv							
シャドーテンタクルス	1	1	メジャー					
効果:	組み合わせた白兵攻撃の射程を10mに変更。無形の影を組み合わせている場合、視界に変更する							
暴食の神蛇	1	4	メジャー				80	
効果:	組み合わせた白兵攻撃のリアクションにおいて、対象はエフェクトを使用できない。さらにエフェクトの効果で得た装甲値を全て無視する。素手限定。シナリオLv回							
背徳の理	5	3	オート					
効果:	オーヴァードに1点でもダメージを与えた場合、シーン間ウロボロスを使用した判定ダイスを+[Lv*2]個する							
極限暴走	1		常時				リミット	
効果:	自身の取得している「1点でもダメージを与えたら使用可能」のエフェクトは、「暴走を受けた際」にも使用できるようになる。基本侵蝕値+3							
原初の白: 異世界の因子	1	7 (5+2)	オート				80%	
効果:	制限ピュア、エネミーエフェクト以外のシーン内で使用されたエフェクトをレベル1で取得する							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「蓮水楓唄だよ。こう見えて運動が得意だから、陸上やってるんだ」

「例えこの力がどんなものであったとしても、今を後悔しないために私は戦うよ」
「あの子の笑顔を———奪うなァ!!!」

◆人物
白神学園中等部3年。陸上部所属で跳躍競技を得意としている
明るく活発的な性格ではあるが、陸上に対して何度も挫折を繰り返しては、壁を乗り越えて生きてきた
何よりも失敗を恐れるため一度葛藤してしまうとしばらくはうじうじと面倒くさくなるが、これをやると決めてさえしまえばそこからの行動は早い。彼女は、あと一歩を踏み出せないことが多い

テストの成績は中の上くらいの平均をいくが、体育の成績だけはいいため最近では学力は諦めがち

春風花怜とは家族同然に過ごしてきた幼馴染
彼女の記憶障害に共に向き合う姿勢であり、どうしたら花怜の忘れてしまった思い出を繋ぎとめてあげられるかを常に考えている。
しかし上手い案の思いつかない楓唄は、花怜を見放すことなく一緒に過ごし続けることを選び、ずっと大切に思っている
大切に思いつぎすぎがゆえに幼いころは過保護な面もあった